留学生国知版 vol.8

cosmos

JAPAN / KOREA / CHINA / MALAYSHIA / BANGLADESH
TUNISIA / MEXICO / MYANMAR / CAMBODIA / VIETNAM
INDIA / BRAZIL / INDONESIA / KENYA / MAROC / LAOS
HONDURAS / COSTARICA / SRI LANKA / TAIWAN

はじめに

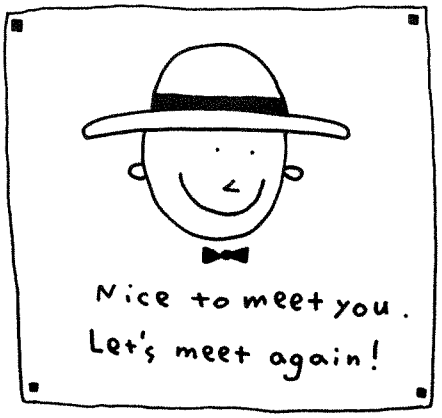
飯塚友情ネットワークの活動を始め１０年を経過しました。
この間、留学生も増加し、一部の方は飯塚に留まり、ベンチャーを行うに至っております。
私達の活動は二瀬公民館、留学生フロントと連携して動いておりますが、大学や飯塚市からも積極的にご協力いただいております。

さて、飯塚市はＩＴ都市シリコンバレーを目指すとしておりますが、動きは決して早いとは言えません。諸外国の動きに比べると残念に思います。二つの理系大学を持つという環境が活きているとは思えません。

今後、大学が教育や研究のみではなく企業社会に進出していき、飯塚市及び市民がベンチャーを理解し大学の知識を十分に受け、地域が発展することを夢見るものです。

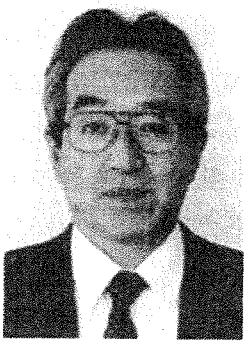
この発展の促進の為には外国の優秀な人材である留学生の役割は大きく、市民と留学生が親密になることの必要性を確信しています。

飯塚友情ネットワーク
代表　　縄田　修



「国際交流」を考えながら

九州工業大学情報工学部長
田中和博



今年度4月より九州工業大学情報工学部長を務めております田中和博です。飯塚キャンパスの留学生のために、友情ネットワークをはじめ国際交流・留学生支援グループの皆様の御好意と御活動のことは、だいぶ前から聞いています。この場を借りて大学としてその感謝のお礼を申し上げますとともに、挨拶を兼ねて一語述べさせていただきます。

国際化が急速に進んでいるこのごろ、日本社会のキーワードの一つは、国際交流ではないかと思います。単なる言語習得や学術会議のレベルを超えて、異文化そのものに対する興味のもとに国際交流を求めているように感じます。欧州連合（ＥＵ）で見られるように、これからの国際社会は国という壁が益々低くなり、周辺の異文化を理解しないと、一人ぼっちになりかねない時代になって来ました。これは、国際社会だけではなく一般社会のどこでも同じことで、会社でも近所の付き合いでも、お互いの理解を深めることが無ければ真の交流はできないでしょう。

私の個人的な経験から考えますと、異文化交流でもっとも大事なことは、異文化に対する尊敬と互いに学び合う心ではないかと思います。さらに、それをもとに自文化を深く理解することによって、“異”と“自”が共存できる社会を作っていくことが、国際交流の目的の一つではないかと思っています。

幸いなことに、飯塚では友情ネットワークや留学生支援センター（二瀬公民館）を始め多くの地域市民の方が、真の国際交流を理解し、積極的に活動されています。また、九州工業大学（情報工学部）では、在学する留学生だけで70人（平成17年5月現在）、教員・研究員を合わせると100人弱の外国の方々がいます。その中には、中国・韓国などの近隣アジア諸国だけではなく、メキシコ、コスタリカ、ケニア、モロッコ、ホンジュラス、チュニジアなどの17カ国の外国の方々が勉学と教育・研究に従事しています。また、飯塚の企業にも、少なくない外国の方々が多様な職場で活躍されていると聞いています。このような恵まれた国際色強い環境の中で、地域市民が主体になって行われる様々なイベントや語学・異文化体験講座および支援活動などは、町の規模から考えると大変素晴らしいものと思われます。これからもこのような国際交流活動をもっと発展させるために、大学もより緊密な協力体制を作っていきたいと考えています。一年前に発足した「国際交流及び留学生支援連絡会」をベースに留学生及び外国人・地域市民・大学が三位一体になって、「異文化・国際文化の豊かな町」飯塚を作っていければ幸いと思います。

最後に、友情ネットワークをはじめ国際交流・留学生支援グループの皆様のご苦労にもう一度感謝しながら、これからの御活躍とさらなる発展をお祈り申し上げます。

留学生の皆さん、及びに飯塚市民の皆さんへ

今回、新しい九州工業大学飯塚キャンパスの留学生会長として挨拶をさせて頂きます。

飯塚キャンパスには 17 ヶ国から来た 70 名の留学生が在籍しております。私は、日本で留学するということは、留学生にとりまして日本ならではの習慣や伝統などを味わう為、そして、日本の皆さんにも外国の文化に接触する為の大変貴重な機会であると思いますので、是非とも、留学生と触れ合って頂きたいと思います。

私達留学生には、日本は文化が母国と全く違いますので、時々どうすればいいかを分からなくなってきて、日本の皆さんに迷惑をかけると思います。特に難しいのは勿論、日本語です。なぜかというと、文法どころか、文字のせいだと思います。恐らく、「せい」という言葉を使うのは失礼になるかもしれませんが、アルファベットと比べましたら、日本文字の数は多過ぎると思います。漢字は幾らぐらいあるかを聞くたび、本当にびっくりして、「日本人は凄いな」と思います。

一方、日本人には英語はとても難しいので、（英語につきましては）何だか不満そうに見えます。「6 年間（中学校から高等学校まで）勉強しましたのに、上手く話せないのは恥ずかしい」というようなコメントは沢山あります。併し、外国人だからといって、皆英語が上手だとは限りません。例えば、私は出身がメキシコで、母国語はスペイン語であります。メキシコ人は日本人と同様に 6 年間英語の勉強をしますが、殆ど誰も上手く話せません。ですから、留学生と話す機会があれば、恥ずかしがらずに挑戦してみて下さい。私達留学生も日本語に挑戦していますから、楽しく話し合いながら、お互いの地元、習慣や文化などを習うことにもなると思います。

飯塚キャンパスの留学生会は留学生を出来るだけ支える為に存在しております。その為、色々な活動、例えばスポーツ大会、旅行などを行われたいと思っております。併し、企画が練られても、皆さんの協力がなければ、何も出来ません。ですから、留学生会長として留学生の皆さんに忠告をさせて頂きます。

- 出来る限り、留学生会の活動に参加して下さい。人数が少なければ、活動の計画も段々少なくなっていきます。
- 悩み事、問題や質問などありましたら、何でも相談して下さい。母国から離れていますし、日本は習慣などが全く違うかもしれませんので、問題を独りで解決することは難しいと思います。
- 折角様々国から人に会う機会がありますから、他国の人とも話しみて下さい。ここには、差別などがありませんので、怖いことがありません。
- 出来る限り、日本語を頑張って下さい。大切な情報は日本語でも英語でも流されますが、色々な楽しい活動の情報は元々日本語でしか流されないこともあります。
- 留学生会の情報は、主にメールで流されていますので、常にメールをチェックしてくだ

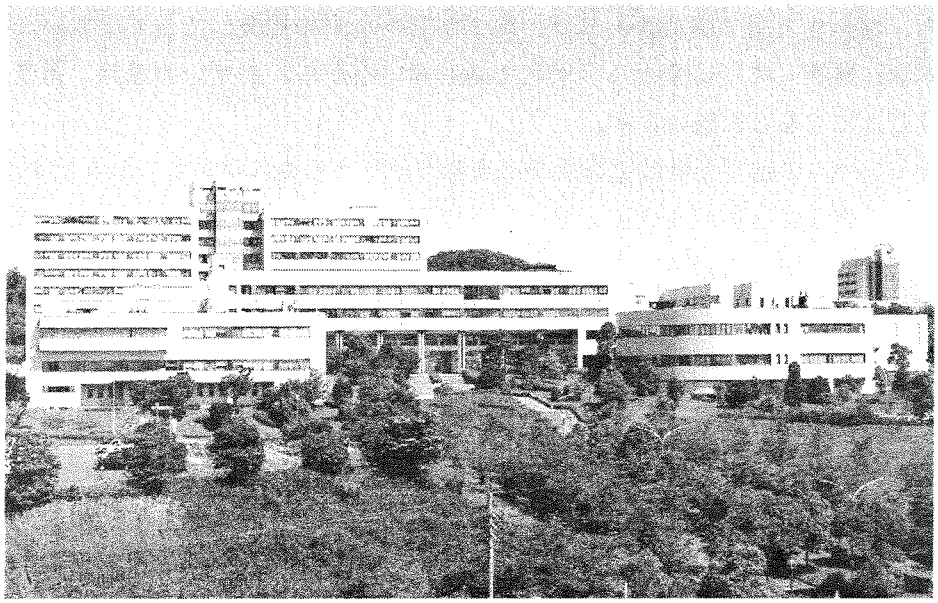
さい。入学した時点から各々メールアドレスがメールリストに登録されます。

・ 健康を十分気をつけてください。

そして、飯塚市民の皆さん。これから色々な迷惑をかけますので、どうぞ宜しくお願いします。

これを機に、自国と日本の掛け橋が出来ますように。また、日本で有意義な時間を過ごせるように。

メディナ　マヌエル
2005年度九州工業大学飯塚キャンパス留学生会長



Dear foreign students and citizens of Iizuka city.

It is my pleasure to greet you all as the new president of the Kyushu Institute of Technology Foreign Student Association, campus Iizuka.

In Iizuka campus, there are 70 students who came from 17 different countries. I think that being in Japan is an extremely valuable chance for foreign students to get in touch with the Japan's unique culture and traditions, as well as for the Japanese to know about the culture of other countries. That's why I invite you to be in contact with the foreign students.

For us, foreign students, Japan's culture is very different from the one we are used to and with which we grew up. For that reason, sometimes I think we bother Japanese people, because suddenly we don't know what do id a situation that is very common for them. Specially, I think that the most difficult thing for us is the Japanese language, and I think it's because of the number of characters: Every time I compare the number of characters in the alphabet we use in Mexico against kana and kanji, I always think "Wow! The Japanese are amazing!"

On the other hand, it seems like English is very difficult for Japanese people, and they do look a little bit dissatisfied about it. I've heard a lot of comments like "It is a shame that we study English for 6 years (3 in junior high school, 3 in high school) and we can't speak fluently". But, that we are foreign students it doesn't necessarily mean that we all are good at English. For instance, I am from Mexico, and my native language is Spanish. Mexican people study English for 6 years too, just like Japanese people, but even so almost no one can speak English there. For that reason, if you have the chance to speak with a foreign student, don't be shy and give it a try! We are also doing our best in Japanese language, so use that chance to know each others culture and traditions.

Speaking about FSAI (Foreign Students Association in Iizuka), it exists to help and support foreign students while they are in Japan. In order to accomplish that, we plan various activities through the year, like sports tournaments and trips, just to mention a few. However, even with plans done, we can't do anything without everyone's participation. That's why, as the president of FSAI, I would like to give you advice:

- Participate and get involved in FSAI activities as much as you can. If the number of people is reduced, then the number of plans will be reduced as well.
- If you are worried about something, you have a problem, a question or whatever, please let us know. Remember that you are far away from home and that in Japan things may not work as in your country, so trying to solve a problem by yourself can

be very difficult sometimes.

- Use this one-in-a-life chance to get in touch with people from other countries. Of course it is important to be with people from your country, but think that you may never have the chance to make friends for other countries.
- Learn Japanese language as much as you can. Official information is always sent in both, English and Japanese, but there are some cases where the information comes from the source directly in Japanese and it is not translated. Besides, it will make your life in Japan much easier.
- Information about FSAI is mainly sent by email, so get used to check your email often. Your mail address is registered in the mail list since you become a student of Iizuka campus.
- Take care of yourself, especially about health.

For citizens of Iizuka city: From now on I think we will be asking you a lot of questions, so "yoroshiku onegai shimasu".

I wish that each of you use this opportunity to become a go-between of your country and Japan, and also that you have a meaningful and great time in Japan.

Yours truly

Manuel Medina
President of FSAI 2005-2006

仏教思想のアイデンティティ～「四法印」について～　　千々和敬明

仏教徒はお釈迦さまの教えを整理して「四法印」といわれる、仏教の基本となる教理を確立しました。
其の壱。『諸行無常』　「諸行」とは、あらゆるものごとや事象ということで「無常」とは、常に変化生滅していて不変のものは存在しないということです。私達の体も時々刻々と多くの細胞が死滅しまた新しい細胞ができて新陳代謝を繰り返しています。大宇宙ですら何億光年の時間をかけて生まれ、育ち、滅んでいきます。すべてのものは生じ、変化し、滅んでいくのです。　無常を前提にものごとを観察し事態に対処していくならば、変化は当たり前なのですから其れに動ずることがなくなるというものです。
其の弐。『諸法無我』　「諸法」とは、あらゆるもの「無我」とは、そのあらゆるものに永遠に変わらない実体や本体等というものはないということです。永遠不変の絶対的存在の否定です。これを大乗仏教では、「空」といいかえられました。
仏教ではあらゆるものごとや事象は因（原因）や縁（条件）によって仮に成り立っているものであり、常に変化生滅しているものであるとの考えますから、私達の心身も細胞や分子などが仮に集まってできているもの、定まった本体はないというのが「空」のいみするところです。
其の参。『一切皆苦』　仏教では「苦」とは思い通りにならないことをいいます。わたしたちの生、老、病死も思い道りにはなりません。だから一切は「苦」だということです。それはすべての存在が「諸行無常」であり「諸法無我」だからです。永遠不変の実体等というものはなく、すべてはつねに変化生滅するものですから、おもいどうりにはならない。だから一切は「苦」だというのが仏教の基本となる考え方です。
其の四。『涅槃寂静』　苦は執着つまり煩悩に起因します。煩悩の火を吹き消せば、寂静に入ることができるはずです。これを涅槃といい、悟りともいいます。涅槃とはサンスクリット語の「ニルヴァーナ」音訳したもので「火を吹き消した状態」という意味です。煩悩の火を吹き消して悟りを開くことであります。
以上が、「四法印」といい仏教の基本教理とされている考え方です。

仏教は、２５００年の昔インドにおいて釈尊によって説かれ、インドにおいて　初期仏教、部派仏教、大乗仏教と変容を繰り返しつつ中央アジア、中国および周辺諸国へ伝播し時間と空間を越えて受け継がれました日本へも６世紀中葉に渡来しました。この間仏教はあらゆる民族の思想や文化を吸収し内包してきたのですそれぞれの国にそれぞれの仏教思想がうまれましたが、そのなかには相矛盾する思想体系が生じたのも必然といわねばなりません。しかしながらそれらの仏教が仏教であるための必要条件とは、上記の「四法印」がつらぬかれているか、ということになります。まさに「四法印」はあらゆる国の仏教思想の根底にあるものということになります。ですから日本仏教もインド仏教、中国仏教とは変容しているけれども、その思想に「四法印」が通徹している点において、釈尊以来の仏教の伝統を受け継ぐものであります。「四法印」こそ仏教思想のアイデンティティナなのです。

私共もあらゆる国際交流の場において、みずからのアイデンティティを確立し大切にしたいものです。

飯塚市の国際交流について

飯塚市企画調整課　久保山博文

飯塚市では２００１年にまちづくりの指針である第４次総合計画を策定し、「英知を豊かさに！活気あふれる学園都市」をメインテーマに大学と連携した情報産業都市を目指したまちづくりを進めています。これまでにＩＴ特区、e-ZUKA トライバレー構想の推進など、その成果も少しずつ表われ、大学発ベンチャー企業の数では全国第７位となっています。

また、飯塚国際車いすテニス大会、国際学会の開催、さらには留学生の増加など国際化が進展しており、市民の皆さんの国際感覚の醸成、国際交流事業の充実、外国人が住みやすいための情報提供が求められています。

飯塚市においては「飯塚国際交流市民のつどい」の開催や「飯塚生活便利帳」を作成し、異文化のへの理解、国際化の促進に努めていますが、留学生の支援については、飯塚友情ネットワーク、留学生フロント、二瀬留学生支援センターなど支援グループのみなさんのご尽力に負うことが大きく、みなさんの活動に改めて敬意を表したいと思います。

支援グループのみなさんたちのすごいことは、その継続的で、献身的な活動ではないでしょうか。単なるイベント的、一時的な活動ではなく、支援グループのみなさんの活動は日常的な支援となって、留学生と言わば“ファミリー”的なお付き合いをされていることです。

このことは留学生にイベントや学習ボランティアの派遣等を依頼したときに「飯塚のみなさんにはいつも大変お世話になっているので、私にできることは何でも協力します。」と言ってくれる言葉に如実に表れています。

昨年、九州工業大学情報工学部を中心とした大学、支援グループ、行政の連絡協議会が組織されました。これはそれぞれの立場から留学生を支援し、支援のネットワークを広げようというものです。これまで留学生を支援されているみなさんと大学、行政が face　to face でいろんな話ができる機会ができ、飯塚市の国際交流の促進、留学生の支援の輪がより一層広がるのではないかと期待しています。

市においてもみなさんと連携し留学生が母国に帰るとき、「飯塚に来てよかった。またいつか飯塚に来よう」と思っていただけるようなまちづくりを進めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

日本語の面白さ（2003年飯塚市外国人スピーチコンテスト原稿）

皆さん、こんにちは。

僕は中国の内モンゴル自治区から来た留学生、侯大偉と申します。今は九工大で情報関係の勉強をしています。今日は僕が日本に来てから、今まで日本語を学んで自ら経験した日本語の面白さをご来場の皆さんに紹介させていただきたいと思います。

僕は日本に来る前にいわゆる標準日本語を3ヶ月ぐらい勉強しました。2001年4月、福岡のある日本語専門学校に入学しました。日本語は3ヶ月ぐらいしか勉強していなかったので、日本の方の言葉がわからないのは当然です。さらに困ったことに、福岡のほとんどの人は博多弁を喋ります。しかも、先生たちは博多弁を教えてくれませんでした。先生は“君たちは、大学入試のために日本語を勉強しているんです。方言は覚えなくていいの、試験の時に博多弁”なんばいしょうと—“とかを書いてしまったら、いい点数もらえないじゃろう”と言われました。けれども、アルバイトを始めてから、毎日店長さんの博多弁を聞いているので、だんだん聞き取れるようになってきました。よく覚えているのは「なんばいしようと」とか、「それじゃろう、これじゃろう」など、たくさんあります。それと、店長さんには口癖があって、「しようがないなぁ！」という言葉をよく口にします。最初聞いたときに、“塩がない”と勘違いしました。「こんなに大きい店なのに、塩がないっておかしいなぁ、」僕は思いました。けれども、お客さんが待っていますし、注文をキャンセルしてもらうわけにもいかないし、それで、僕は店長さんにこうアドバイスしました。「お客さんが待ってるから、塩がなければ、醤油でいいじゃない、味はちょっと変わるけど”。」結局、お客さんにめちゃくちゃ笑われました。年四月、九工大の飯塚情報工学部に入学しました。僕は私費留学生ですので、アルバイトしなければなりません。すぐに見つけた仕事は平恒のさかえや工場の仕事です。九工大から平恒まで、自転車では無理なので、やむを得ず中古のバイクを購入しました。そのバイクで通勤しています。しかし、頭に来るのは、このバイクは購入してから2ヶ月も経たないうちに、故障してしまいました。バイク屋さんに聞いてみたら、“マフラーが詰まっとうよ、9千円ぐらいかかるばい——”といわれました。9千円は僕にとってあまりに高いので、自分で修理してみることにしました。

インターネットで調べてみると、灯油でマフラーを洗うだけで、簡単に直ると書いてあります。それでガソリンスタンドに灯油を買いにいったのですが、そのとき面白いことがありました。「灯油を1リットルください」と僕はガソリンスタンドのおじさんにいいました。「灯油ですね、1リットルってなんに使う？」おじちゃんは僕に聞きました。「マフラーを洗います。」僕は答えました。「はぁ——、マフラーを洗う、珍しいなぁ、、、、、マフ

ラーがそんなに汚れとう？」おじちゃんは不思議そうな顔をしました。”はい、すごく汚れてる、油でないと、取れないんです”僕が答えた。”あぁ、そ――うか、灯油で洗ったら、また洗濯機にいれて洗うと？”おじちゃんが聞きました。”いいえ、灯油でよく洗ってから、火をつけて燃やすんです。”僕は素早く答えました。おじさんは僕の話を聞いて、さらに納得できないように僕を見ました。”48円です”、僕がお金を払って、ガソリンスタンドを出ようとしたとき、おじちゃんは僕に声をかけました、”あぁ、、、なるほど、バイクのマフラーか、俺は人の首に巻くマフラーかと思った。”僕たちは顔を見合わせて、笑いました。”あぁ、、そうやね、首に巻くマフラーだったら、灯油で洗うわけはないね、しかも火をつけて燃やすなんて。やっぱり年をとったもんやね！頭ボケてるなぁー！”おじちゃんが呟きました。

日本語にはそういうたくさんの意味を持つ言葉が数多くあります。たとえば、「お茶入れましょうか？」と聞いて「いいです！」そう言われたら、一番困ります。今では自分もそういう言葉を使えるようになりましたが、最初日本に来たとき、そのお茶を入れたらいいか、入れないのがいいか、ほんとに分かりませんでした。“いいかげん”という言葉もまったく逆の二つの意味をもちます。「ちょうどいい意味もありますし、いいかげんな意味もありますね」。それと、留守という言葉もそうです。家にいない意味ですが、漢字を見ると、留まると守る、つまり、留まって守るのです、見た目ではそう思われます。留まって守っているのに家にいない、面白いでしょう。また、日本語には“足を洗う”という言葉があります。やくざの人はやくざをやめることを“足を洗う”といいますね、ところが中国語では同じことを“手を洗う”といいます。やくざの人は仕事するときに手を使って仕事するのですが、辞める時になぜ足を洗うか未だにわかりません。

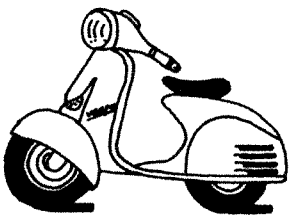
先ほど、僕はさかえやでアルバイトをしているといいました。この仕事は生産が終わって、生産ラインをばらして、よく洗ってから、滅菌するのがメインです。先週いつも洗っている部品の一部がなくなりました。それは金属でできたまん丸の玉です。お菓子に混入するおそれがあるので、すぐに責任者を呼んで来ました。”どうしたの？”責任者の御厨さんは僕に聞きました。僕はそのなくなった部品の名前を知らず、ただ金属でできた玉ということしか分かりません。思わず”金玉が一個なくなりました”と答えてしまいました。そのとたん、また周りの人にめっちゃに笑われました。災厄なのは、その日の責任者御厨さんは女性だったのです。そのあと御厨さんに教えてもらいましたが、金玉は金属でできた玉という意味ではないことがよく分かりました。

日本語には見た目とぜんぜん違う意味を持つ言葉がたくさんあります。そういった言葉の使い分けは外国人の僕たちにとっては難しいですが、今考えてみたら、それこそ日本語の生命力ですね。日本語を勉強しなければ、その面白さはわからないでしょう！ ちなみに自分のホームページ（http://www.fsai.kyutech.ac.jp/~david/）にも日ご

ろ僕が気づいた異文化の面白さや、中国や、モンゴルの文化などを紹介しています。興味のある方はご覧になっていただければうれしいです。

スピーチはここまでにしますが、ここでもうひとつ申し上げたいことがあります。それは、日本にきてから今まで、たくさんの日本の方々が僕を助けてくださいました。日本語学校の先生たち、筑豊ライオンズクラブの和田会長を初めの皆さん、アルバイト先の方々など。そういった日本の方々の助けがなければ、今の僕はなかったかもしれません。ですから、日本の方々に心から感謝しております。今の僕の力で恩返しすることがまだできませんが、将来、絶対何らかの形で日本の方々に恩返ししたいと思います。

侯大偉　2004



翁　　頂　升

近畿大学飯塚分校出身
現在 虎尾科技大学　助教授
日本と台湾の交流に力を注いでおります。

Story of Abukun

Dr. K. A. Bava, Researcher KIT

Abukun was born as a disabled child without legs and one arm at Ponnani, Kerala state, India on 22nd August 1996. His full name is Aboobacker Sidheeq Akbar.

It was a long time quest for his parents to find some facility for Abukun to move around. It was so sad for his parents, relatives and friends to see him immobile in disabled condition when all the children in his age are going to school, playgrounds, and other places.

They knocked all the doors for the support to get him mobility, especially to make him go to school in his school-going age. But, all were helpless to help him as his case was very rare in nature with extreme disability.

Personally, Abukun's father is my friend so I also was approaching all the available sources for some help for him. When I moved to KIT, I knew from Mr. Kermene about Dr. Nawata and his service and help to foreign community in Iizuka. He introduced me to Dr. Nawata and presented Abukun's case to him in the end of 2003. Dr. Nawata kindly agreed to consider Abukun's case and discuss the matter with his friends and colleagues. Later, he arranged the visit for Abukun and his family to Japan.

Finally, Abukun and family arrived in Iizuka on 20th April 2004. Dr. Nawata arranged a consultation for Abukun with Sekson center (Spinal Injury Center) experts. They proposed to design an electric wheelchair with a joystick so that he can operate it with his 3 fingers available on his only one arm.

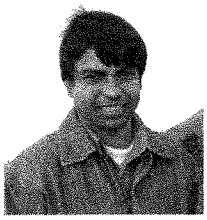
As the cost for the electric wheelchair and training at Sekson Center are very expensive, it was a big task to Dr. Nawata and his group to mobilize such a big fund within 2 months. Japanese TV and newspapers gave a good coverage for Abukun project to provide him a wheelchair to go to school. Many kind people in Iizuka came forward to help the project.

Finally, Dr. Nawata was successful in mobilizing that huge fund from his friends and well-wishers in Iizuka.

It was the happiest moment for Abukun and his parents to possess an electric wheelchair. Now he is able to move around, go to school, or any other places with nobody's support.

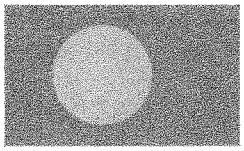
Abukun and his parents went back to India from Japan in July 2004 with his new wheelchair, many gifts from his new friends in Japan and remarkably with a laptop a gift from Dr. Nawata. Their hearts were full of thanks and gratitude to Dr. Nawata, his friends, colleagues and all other well-wishers in Iizuka for their kind help towards him.

Now Abukun is going to school in India with his wheelchair with nobody's support.



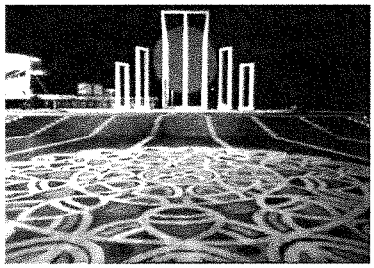
Introducing the red in green...

Mohammad Rubayet Hasan



International media rarely focuses Bangladesh, my homeland, unless there is a big accidental event or a devastating natural disaster. As a result, internationally, Bangladesh is either not known at all or known as a tiny little country of South East Asia, overburdened with political volatility, poverty, flood or cyclones. But I would like to say that what you see in the media is just not all about Bangladesh. There are many things, behind those troubles, that are worth mentioning and we can still be proud of. In this article, I would like to share some of those things with our friends here in Iizuka.

First of all, I should be blamed if I do not start from the story how we started the journey as an independent nation. The reason is that there are few countries in the world that paid so much for independence. Although our war of liberation lasted for just about 9 months (in 1971), the cost was very high. Three million people sacrificed their lives for the sake of their motherland. The armed struggle and mass resistance, during the war, was actually a culmination of a series of events ran for many years since Indian Subcontinent freed from the colonial rule. One of the most notable of those events was the language movement in 1952, which is considered as the seed of our independence war. The language movement itself is a marked event in our national life. This is the only example in the world where people gave their lives for saving the mother language. If you ever go to Bangladesh and stay there in the 21st February, you will see a beautiful scenario all over the country. Starting from the very early morning, peoples of all ages and all professions, queues for miles after miles to visit the Shaheed Minar (martyrs' memorial) to pay tribute to those who gave their lives for Bangla, while singing a special melodious song in the memory of the language martyrs. The 21st February, which is now recognized as the International Mother Language Day (introduced by UNESCO), also reminds us about the rich and diverse cultural tradition and heritage of Bangla and its peoples.



In fact, the history of Bengali culture is much older than Bangladesh itself, dating back to hundreds of years. The rich and unique cultural traditions are reflected by a variety of festivals taking place throughout the country, even today. Although some of those festivals are linked to religious traditions, they are usually enjoyed by the most if not all, by some means. Here, I would like to introduce one common festival observed by all Bangladeshis regardless of races or religions. The Bengali New Year day, celebrated on the 14th of April, is such a wonderful event for all Bangladeshis. We call it 'The Pohela Boishakh'. As I said earlier, all special days in Bangladesh starts from very early morning. The fresh atmosphere of the early morning refreshes the minds of working people, giving us special festival feelings. So, the New Year day also starts early. In the capital Dhaka, central arrangements are made in a big park, a historical place. People from all over the city moves to the place. Women dressed with yellow colored 'sari' with red lining and men dressed with cream colored 'Panjabi and Pajama'. Singers start the day with one special song, welcoming the New Year and continue all along the day, group by group.

And as the morning grows, lively and colorful rallies with dancing participants, take over the city, awaking almost all city dwellers. You would see fairs arranged everywhere, almost one in every square kilometer, giving you an excellent opportunity to buy traditional hand made items in very cheap price.

Food is an indispensable associate of all festivals in Bangladesh. In the New Year day, the tradition is to eat 'Panta Vat' (rice kept in water overnight) and fried 'Ilish' (the national fish of Bangladesh). While in the rural area, women make hundreds of varieties of sweets and cakes to welcome the New Year. It is generally believed that if you eat good food in the first day of the year, you will be able to carry on it throughout the year. Now, that you might be little curious about our everyday foods. Generally, we are habituated to take spicy food every day. The main food is rice and curry. One day, one of my Japanese friends was asking, don't you fell boring eating curry everyday? I was thinking how I could make him understand that there are so many kinds of curry!!! We make curries from any kind of raw materials like fish, meat, vegetable, egg etc. Moreover, little change in the composition and texture of curries make many different tastes. Unlike most of the countries, where seawater fishes are most common, freshwater fishes are a great resource of Bangladesh. There is a popular proverb that 'Bengalis are born for fish and rice'. Interestingly, if you go the villages, still you will find families, who only need to buy salt and oil from the market. All other things, starting from spices to meat, they produce by themselves using the land and water resource they own. Can you imagine how it feels, when you are taking a delicious lunch, with all ingredients produced domestically!!!

You would have probably noticed that I have hardly spoken about the natural, historical or artificially made resorts of Bangladesh. Actually, today I am purposed to talk about the people of Bangladesh rather than its scenic beauty. You may find a pretty nice tourist spot in almost every countries of the world, but you may not find an opportunity to have a real touch of indigenous culture and traditions. In this regard I am very happy to mention that the people of Bangladesh are extremely cordial to their guests. You cannot leave any ones house without having at least a cup of tea. Offering foods and drinks is a kind of mandatory social custom. Even the poorest person of the country, from a far remote village, will offer you the last pot of rice or the last drop of drinks he has, in spite of the fact that, he might have to starve after that.

Bangladeshis, in general lead a very social life. Unless we have an unavoidable circumstance, we live with our parents and other first relatives, in a joint family, after growing up and after getting married. The senior members of the family are obeyed, respected and taken care of by the junior members of the family. Visiting relatives and friends is a matter of every week, if not every day. Friend circles used to gather somewhere every evening and can pass hours after hour gossiping, while taking tea. It is customary that everyone wants to pay the total bill after taking something in a group in the restaurants.

So, these are just few examples, by which I tried to describe my fellow country people, an extremely emotional nation, which demonstrated courage, generosity of the heart and sacrifice, several times throughout the history. I feel proud of my country people, not for those so-called political leaders or few big fishes, but for my majority farmers, fishermen or workers, who actually built ourselves as an independent nation, giving us a national flag, the red rising sun in a green landscape....

Asian Tsunami

A great earthquake occurred on Sunday, 26 December 2004. The magnitude 9.0 event was located off the West coast of Northern Sumatra. This is the fourth largest earthquake in the world since 1900 and is the largest since the 1964 Prince William Sound, Alaska earthquake. The earthquake had a depth of 10 km.

The earthquake triggered massive tsunamis that affected several countries throughout South and Southeast Asia. The tsunami crossed into the Pacific Ocean and was recorded along the west coast of South and North America. Tsunamis also occurred on the coasts of Cocos Island, Kenya, Mauritius, Reunion and Seychelles. The earthquake was felt s in Banda Aceh and Medan, Sumatra. It was also felt in Bangladesh, India, Malaysia, Maldives, Myanmar, Singapore, Sri Lanka and Thailand.

In a few short hours, these waves transformed a beautiful tropical morning into a horrific scene of death and destruction. Hundreds of thousands of people lost their lives; many thousands more became homeless and thousands of children were orphaned. The death toll from the Asian tsunami disaster had been reported to 226,566 and more than 35,000 others missing in 11 countries affected by the Asian tsunami. And 500,000 are injured, and 5 million are rendered homeless. UN estimated that $150.8 million will be needed to provide food for the homeless in the tsunami affected areas soon after the tsunami happened.

One of a major tsunami effected country is **Sri Lanka.** The latest official death toll stands at more than 30,959, and 5,563 people were missing, 15,196 people had injured and 403,245 displaced after the decisive disaster. But there is still no accurate estimate from some of the worst affected areas. Rescue and relief workers continue to search for bodies among the wreckage. The 1200km (68%) of its 1770km costal belt was completely damaged (Figure 1). Twelve of the fourteen coastal districts, were affected, only in the North-Western region the damage was minimal. The island has never experienced a devastation of this magnitude, whether natural or man-made, in its recorded history.

In **India** the Andaman Islands, Nicobar Islands, Kerala, Tamil Nadu, Chennai, Andhra Pradesh were all affected. At least 10130 people were dead, 364200 were displaced and 5600 people were missing from the tsunami.

With half of the casualties being reported from **Sumatra, Indonesia.** Indonesia remains the worst hit country, with 163,978 people dead or missing. According to the National Disaster Relief Coordination Agency, the number confirmed dead was 126,915 people while 37,063 were listed as missing. Figure 2 shows the effected areas in Banda aceh,

In Thailand, this caused great loss of life and destruction to buildings and infrastructure in the popular resort areas of Phuket, Phi Phi Island, Krabi, and other smaller islands in that vicinity. Along the eastern coast of Phuket island, waves crashed over Rassada Pier as passengers were waiting to board ferries for Phi Phi Island. The Laguna Phuket was protected from a direct hit by

the headland to its South and thus spared the serious damage reported from other areas of the island. Total number of dead was 5305 , total number of missing was 3498 in Thailand.

The **Maldives's** only international airport on the tiny island of Hululle reopened early on 27 December, after workers pumped out water that had inundated the runway. The entire island of Dhiffushi, a prime tourist destination, was submerged and would have to be rebuilt.

In Myanmar damage was reported only in the southern archipelago, with minimal to no impact reported at Ngapali, Chauntha, and Ngwe Saung beaches.

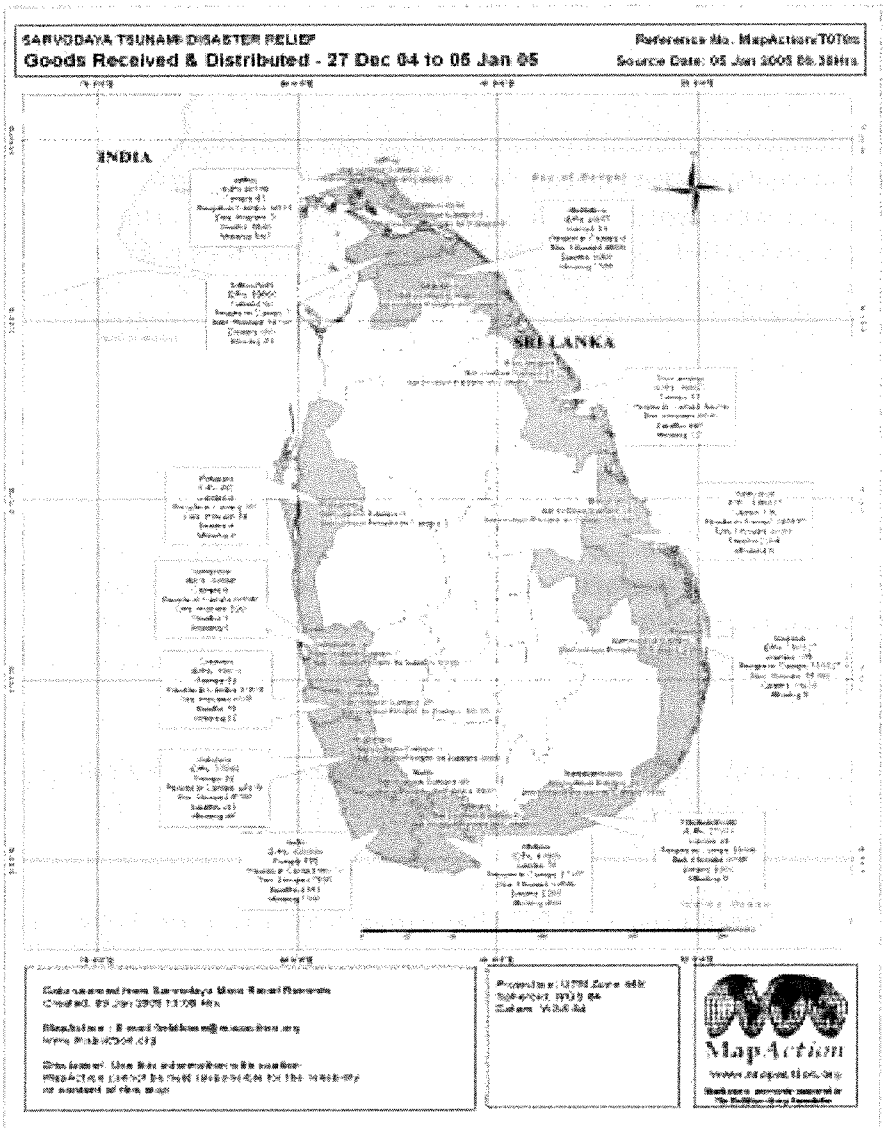


Figure 1 : Tsunami effected areas Sri Lanka

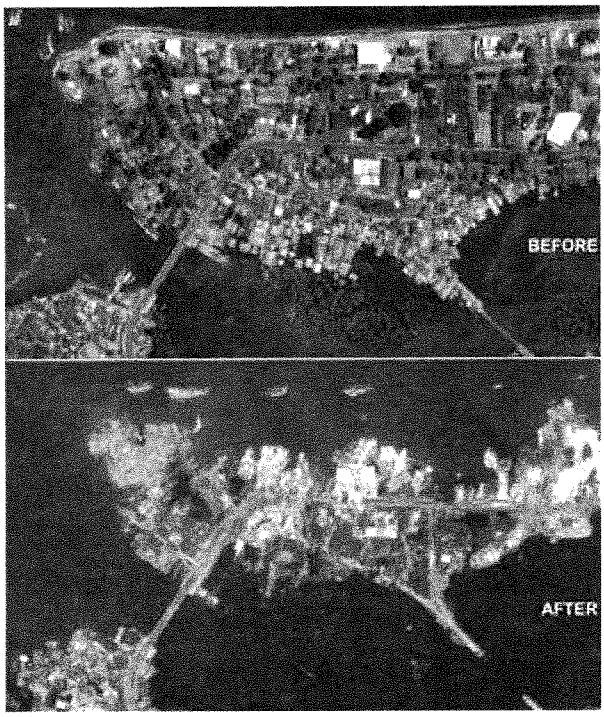


Figure 2 ;Devastation to Banda Aceh on the island of Sumatra as a result of the tsunami caused by the 2004 Indian Ocean earthquake

ROHAN SAMARASINGHE
ロハン サマラシンハ

「留学生フロント」の活動

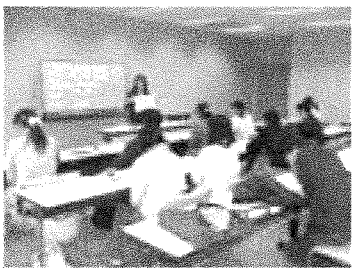
野 口 博 子

留学生フロントの活動を始めて今年で10年目を迎えます。主な活動としては、毎週土曜日午後1時半より外国人を対象に飯塚コミニュティーセンターで日本語教室を行っております。今年から初級、中級、上級に加えて、漢字クラスを設けています。現在の受講者は約30名です。その他年間を通じて色々な行事にも参加しています。
また、ホームページも立ち上げておりますので、ご覧下さい。http://iizuka.cside.com/

（連絡先：0948-25-2592 野口）

授業風景

場所:飯塚市コミュニティセンター(3F:303号)
毎週土曜日
初級・上級：13:30～14:30
中級・漢字：14:30～15:30
ティータイム：15:30～



花　見

桜の季節になると、飯塚市勝盛公園で花見をします。満開の桜の下で、お弁当を食べたり、ゲームをしたりして楽しみます。

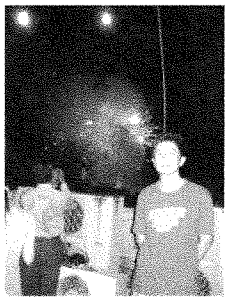
飯塚友情ネットワークとの交流会

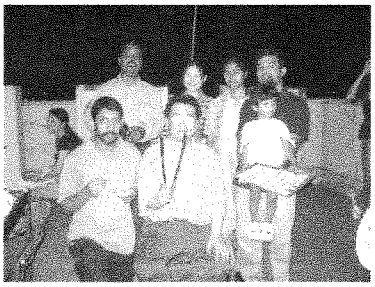
毎年6月、飯塚市寿会館での「飯塚友情ネットワーク」主催の交流会にお招き頂いています。ここでは、様々な分野で活躍されている在日外国人の方々と交流することができます。
私たち「留学生フロント」は、教室で学んだ「日本語の歌」を披露し、毎年好評を得ています。

七夕（たなばた）

毎年七夕の時期には皆で短冊に願い事を書き、大きな笹に飾りつけをします。飾り付けされた竹は、コミュニティセンターの入口に飾って頂いています。

花火大会





毎年8月に遠賀川河川敷で開催されている飯塚の花火大会です。
飯塚市本町商店街の「久留米屋」さんに招待いただき、屋上でバーベキューをしながら花火を眺めます。

二瀬公民館祭り

九州工業大学飯塚キャンパスの留学生を支援している飯塚市二瀬公民館の秋の行事です。サークル発表、バザーの他、留学生手作りのお国料理も販売され、地域住民と在日外国人の方々との交流の場にもなっています

忘年会

年末最後の授業の後、教室でささやかなパーティーを開いています。賞品付ゲームには皆必死です。お茶菓子もいつもよりちょっと豪華です。

留学生支援センター（二瀬公民館）

二瀬地区留学生支援ボランティアの会が実施している活動で、日常品や中古自転車を再生し、提供します。中古自転車の提供は昨年度100台を超えました！

また、引越しの手伝い、地域との交流会、日本文化芸能の体験が出来る事業を展開しています。

★ 楽しいレクリエーションへ参加してみませんか？ ★

5月：飯塚友情ネットワークと留学交流パーティー

9月：住民運動会の特別招待

11月：二瀬公民館まつり

3月：留学生卒業記念サヨナラパーティー

（不定期の地域の学校行事への参加）

ボランティアの皆さんが留学生に提供できるもの

- リサイクル自転車
- 日用品から食器、コタツ、扇風機、ポット、布団、毛布、家具、ベッド
- 引越しの手伝い

留学生の皆さんに手伝って欲しいこと

地域の行事に参加してください。

公民館まつり、小中学校行事への参加、九工大周辺のクリーンキャンペーン、公民館での語学支援、国際交流事業、日本文化の習得

問い合わせ　留学生支援センター（飯塚市二瀬公民館）
〒820-0067　飯塚市川津675-1
Tel・Fax　22-2196

山元　将生　22-8877　　太郎良　浩　28-6352
堀　隆志　23-0910　　吉武　昌信　28-0714

KPT TSUBAKI

＊ ＊＊＊

こんにちは、新しい留学生のみなさま。
私たちはＫＰＴ　ＴＳＵＢＡＫＩ（クルムプアンタイ椿）　という小さな団体です。
アジアの人々との仲良しグループです。楽しいことや辛いことをわけあって生きていきたいと願っています。小さいグループですからほんとに小さいことしか出来ないのですが、ずっとみなさんと友達でいたいと思います。いつでも遊びにきてください。
ホームステイもどうぞ　。

連絡先：　820-0084　嘉穂郡　穂波町　椿 494　　藤田　等　・　達子
℡　0948-21-2749
E-mail　matoko494@yahoo.co.jp

九　州　工　業　大　学
平成17年度　　学 年 暦（情報工学部）

区　　分	事　　項	期 日 又 は 期 間
前　学　期 4月1日（金） ～ 9月30日（金）	・春期休業	4月1日（金）～ 4月9日（土）
	・入学式	4月6日（水）
	・新入生オリエンテーション	4月6日（水）～ 4月8日（金）
	・前学期授業期間	4月11日（月）～ 7月22日（金）
	・学生定期健康診断	4月18日（月）～ 4月20日（水）
	・開学記念日	5月28日（土）
	・前学期授業調整期間	7月25日（月）～ 7月27日（水）
	・前学期末試験	7月28日（木）～ 8月5日（金）
	・夏期休業	8月7日（日）～ 9月15日（木）
	・前学期再授業再試期間	9月16日（金）～ 9月30日（金）
後　学　期 10月1日（土） ～ 3月31日（金）	・後学期授業期間	10月3日（月）～ 1月27日（金）
	・臨時休業	11月18月（金）～11月21日（月）
	・第45回工大祭	11月18月（金）～11月20日（日）
	・冬期休業	12月24日（土）～ 1月6日（金）
	・平成18年度大学入試センター試験	1月21日（土）～ 1月22日（日）
	・後学期授業調整期間	1月30日（月）～ 2月7日（火）
	・後学期末試験	2月8日（水）～ 2月16日（木）
	・後学期再授業再試期間	2月20日（月）～ 2月28日（火）
	・学部卒業式・大学院学位記授与式	3月23日（木）

平成17年度　九州工業大学　情報工学部　留学生

	氏　　名	性別	国　籍	区　分	学年
1	ﾗﾓｽ　ﾋﾙﾍﾞﾙﾄ　ｴﾝﾘｹ	男	ﾎﾝｼﾞｭﾗｽ	電子情報工学科	1年
2	秦　子瑞	男	中　国	生命情報工学科	1年
3	畢　建偉	男	中　国	知能情報工学科	2年
4	張　吉文	男	中　国	知能情報工学科	2年
5	Mｼｭｸﾙ　ｴﾌｪﾝﾃﾞｨ　ﾋﾞﾝ　ｲﾌﾞﾗﾋﾑ	男	ﾏﾚｰｼｱ	機械ｼｽﾃﾑ工学科	2年
6	ﾓﾊﾏﾄﾞ　ｶｲﾘﾙ　ﾍﾙﾐ　ﾋﾞﾝ　ﾀﾙﾐｼﾞ	男	ﾏﾚｰｼｱ	機械ｼｽﾃﾑ工学科	2年
7	ﾅｽﾞﾘ　ｱｼﾞﾐ　ﾋﾞﾝ　ﾗﾑﾘ	男	ﾏﾚｰｼｱ	機械ｼｽﾃﾑ工学科	2年
8	ﾏｽﾞﾘﾅﾋﾞﾝﾃｨ ﾓﾊﾏﾄﾞ　ｱﾘﾌ	女	ﾏﾚｰｼｱ	電子情報工学科	2年
9	劉　宇蕙	男	中　国	生物化学ｼｽﾃﾑ工学科	2年
10	侯　大偉	男	中　国	知能情報工学科	3年
11	王　旭	男	中　国	知能情報工学科	3年
12	王　曼	女	中　国	知能情報工学科	3年
13	ｼﾞｭﾙｼﾞｬｽﾐﾋﾞﾝｼﾞｭﾘｰ	男	ﾏﾚｰｼｱ	知能情報工学科	3年
14	張　瓏月	女	中　国	電子情報工学科	3年
15	張　超	男	中　国	制御ｼｽﾃﾑ工学科	3年
16	朴　玉姫	女	中　国	機械ｼｽﾃﾑ工学科	3年
17	ｼｪｳﾞｫﾝ　ﾌｪﾙﾅﾝﾄﾞ	男	ｽﾘﾗﾝｶ	電子情報工学科	3年
18	周　翔飛	男	中　国	知能情報工学科	3年
19	瀋　顕東	男	中　国	機械ｼｽﾃﾑ工学科	3年
20	ﾑﾊﾏﾄﾞ　ﾌｧｼﾞﾙ　ﾋﾞﾝ　ｱﾌﾞ　ﾊﾞｶﾙ	男	ﾏﾚｰｼｱ	知能情報工学科	3年
21	金　信周	男	韓　国	制御ｼｽﾃﾑ工学科	3年
22	張　晶	女	中　国	機械ｼｽﾃﾑ工学科	4年
23	ﾚｰ　ﾌﾝ　ﾄｩｲ	女	ﾍﾞﾄﾅﾑ	電子情報工学科	4年
24	ﾌｧﾝ　ﾁｭｵﾝ　ｸｱﾝ	男	ﾍﾞﾄﾅﾑ	制御ｼｽﾃﾑ工学科	4年
25	ｶﾞﾌ　ｱﾝﾄﾆｰ　ﾜﾝﾌﾞｸﾞ	男	ｹﾆｱ	生物化学ｼｽﾃﾑ工学科	4年
26	ﾐｭﾗ　ﾓﾘﾅ　ｱｰﾉﾙﾄﾞ　ﾎｾ	男	ｺｽﾀﾘｶ	大学院博士前期課程	1年
27	朴　金姫	女	中　国	大学院博士前期課程	1年
28	ﾏｰﾀﾞﾜｼﾞｬﾔｳｨｸﾗﾏ	男	ｽﾘﾗﾝｶ	大学院博士前期課程	1年
29	沈　美君	女	中　国	大学院博士前期課程	1年
30	黄　智煥	男	韓　国	大学院博士前期課程	1年
31	陳　暑	男	中　国	大学院博士前期課程	1年
32	呉　楠	女	中　国	大学院博士前期課程	1年
33	ﾏﾇｴﾙ ﾒﾃﾞｨﾅ ｺﾞﾝｻﾞﾚｽ	男	ﾒｷｼｺ	大学院博士前期課程	2年
34	ﾊﾌｧｴｳ　ｶｴﾀﾉ　ﾄﾞｽ　ｻﾝﾄｽ	男	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ	大学院博士前期課程	2年
35	陳　涛	男	中国	大学院博士前期課程	2年
36	ﾁｰ ﾅｰﾘｯﾄ	男	ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ	大学院博士前期課程	2年

37	ｱﾌﾞﾀﾞﾗｳｲ ﾍﾞﾗﾀﾞ ｱｼﾞｽﾞ	男	ﾓﾛｯｺ	大学院博士前期課程	2年
38	姜　シン	男	中　国	大学院博士前期課程	2年
39	ﾆｬﾗﾝｷﾞ ｻﾞﾌﾞﾛﾝ ｵｺﾞﾆｮ	男	ｹﾆｱ	大学院博士前期課程	2年
40	陳　展悦	男	台　湾	大学院博士後期課程	1年
41	金　明月	女	中　国	大学院博士後期課程	1年
42	ｻｰｶﾙ　ﾀﾞﾔﾆﾃﾞｨ	男	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	大学院博士後期課程	1年
43	ﾆｻﾞﾑ　ｾｲｴﾄﾞ　ｱｼﾌ	男	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	大学院博士後期課程	1年
44	高　興涛	男	中　国	大学院博士後期課程	1年
45	張　艶	女	中　国	大学院博士後期課程	1年
46	ｻﾞﾘﾝ　ｱｸﾀｰ	女	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	大学院博士後期課程	1年
47	白　静	女	中　国	大学院博士後期課程	2年
48	ﾗﾊﾏﾝ　ﾓﾊﾒﾄﾞ　ｸﾘﾙ	男	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	大学院博士後期課程	2年
49	ﾊｻﾝ　ﾓﾊﾏﾄﾞ　ﾅｼﾑ	男	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	大学院博士後期課程	2年
50	梁　建国	男	中　国	大学院博士後期課程	2年
51	ﾛﾎﾏﾝ　ﾏﾊﾌﾞﾊﾞ	女	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	大学院博士後期課程	2年
52	ｱﾙﾐﾝ　ﾗｳｲ	男	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	大学院博士後期課程	2年
53	覃　輝	男	中　国	大学院博士後期課程	2年
54	ｸﾞｴﾝ ﾀﾞﾝ ﾋﾞﾝ	男	ﾍﾞﾄﾅﾑ	大学院博士後期課程	2年
55	ﾎﾟﾍﾟｰｲｰ	女	ﾏﾚｰｼｱ	大学院博士後期課程	2年
56	ｳﾝ ｶｵｳ ｲｪﾝ	男	ﾏﾚｰｼｱ	大学院博士後期課程	2年
57	ﾛﾄﾞﾘｺﾞ ｸﾙｸﾗﾂﾘﾔ ﾗﾝｶ	男	ｽﾘﾗﾝｶ	大学院博士後期課程	3年
58	ｼｬﾚﾙ ｱｽﾞﾐﾝ ﾋﾞﾝ ｽﾝﾃﾞｨ ｱﾗｲﾔｽ ｽｱﾝﾃﾞｨ	男	ﾏﾚｰｼｱ	大学院博士後期課程	3年
59	尹　淑萍	女	中　国	大学院博士後期課程	3年
60	ﾌｪﾘｰ ﾊﾀﾞﾘｰ	男	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	大学院博士後期課程	3年
61	李　艶秋	女	中　国	大学院博士後期課程	3年
62	ﾊｯｻﾝ ﾓﾊﾝﾏﾄﾞ ﾙﾊﾞｲｴｯﾄ	男	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	大学院博士後期課程	3年
63	楊　剣飛	男	中　国	大学院博士後期課程	3年
64	ｲﾌﾞﾗﾋﾑ　ﾑｽﾀﾌｧ	男	ﾏﾚｰｼｱ	大学院博士後期課程	3年
65	ﾏﾙｽﾞｷ ｷﾙﾒﾝ ﾍﾞﾝ ｱﾊﾒﾄﾞ	男	ﾁｭﾆｼﾞｱ	大学院博士後期課程	3年
66	張　軼広	男	中　国	電子情報工学科	研究生
67	井田　義夫　ｱﾝﾄﾞﾚ　ﾙｲｽ	男	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ	電子情報工学科	研究生
68	黄　鶴	男	中　国	情報科学専攻	研究生

近　畿　大　学

前 期 （4月1日～9月16日）

4月 1日(金)	平成17年度始め
5日(火)	入学式
6日(水)～ 4月7日(木)	新入生オリエンテーション
6日(水)	安全運転講習会
8日(金)	健康診断・在学生ガイダンス
9日(土)	新入生歓迎宿泊研修会
11日(月)	前期授業開始
5月14日(土)	4月29日(金)補講
28日(土)	5月 3日(火)補講
6月11日(土)	5月 4日(水)補講
25日(土)	5月 5日(木)補講
7月 9日(土)	7月18日(月)補講
19日(火)～ 7月30日(土)	前期試験期間
8月 1日(月)～ 8月 6日(土)	集中講義・追試験期間
6日(土)	前期試験成績報告締切日
8日(月)	夏期休暇

後 期 （9月17日～3月31日）

9月17日(土)	後期授業開始
10月 8日(土)	9月19日(月)補講
22日(土)	9月23日(金)補講
28日(金)～10月31日(月)	大学祭
11月 5日(土)	創立記念日
12日(土)	10月10日(月)補講
26日(土)	10月28日(金)午後分・31日(月)午前分の補講
12月10日(土)	11月 3日(木)補講
12月24日(土)	12月23日(金)補講
24日(土)	授業終了
12月25日(日)～ 1月 9日(月)	冬期休暇
1月10日(火)	授業再開
14日(土)	1月 9日(月)補講
1月16日(月)～ 1月20日(金)	後期試験期間
23日(月)	11月23日(水)補講
24日(火)～ 1月28日(土)	集中講義・追試験期間
28日(土)	後期試験成績報告締切日
	後期授業終了
2月 6日(月)～ 3月31日(金)	春期休暇
7日(火)～ 2月 8日(水)	卒業予定者再試験期間
9日(木)～ 2月10日(金)	卒業研究着手予定者再試験期間
3月中旬	転学部・転学科試験
中旬	平成17年度卒業式
下旬	成績発表
31日(金)	平成17年度終了

平成17年度　留学生一覧表

産業理工学部

学科	学年	学籍番号	氏名	性別	国籍
電気通信工学科	1	05-1-72-066	ユン ジョン 尹 智鏞	男	韓国
生物環境化学科	3	03-1-71-055	ﾄｸ ﾐｬｺ 徳 都	女	中国
産業デザイン学科	4	02-1-74-074	ｲﾝ ｹﾂ 殷 杰	男	中国

大学院

研究科	専攻	学年	学籍番号	氏名	性別	国籍
産業技術	電子工学	M2	04-9-82-002	ｻｲﾋﾞｼｯﾄ ｳﾞｨﾀﾔ	男	ラオス
産業技術	経営工学	M2	04-9-84-002	D.V.ｶﾞﾝｶﾞ ｸﾑﾃﾞｨﾆ	女	スリランカ

飯塚友情ネットワーク　会員リスト

秋元　正幸	820-0067	飯塚市川津　95-131	28-3032	電気店
有松　賢作	820-0041	飯塚市飯塚　11-20	22-1738	筑豊食品工業社長
有吉　崇	820-0054	飯塚市伊川89	22-1590	一番食品専務
伊藤　啓二	820-0041	飯塚市飯塚　5-7	24-5557	(有)魚場社長
井上　有比古	820-0011	飯塚市柏の森　673-3	29-0655	井上洋服店社長
牛島　正和･ミツヨ	820-0089	嘉穂郡穂波町小正　1	25-3490	内科外科医
榎本　広明	820-0068	飯塚市片島　3-4-3	22-6699	つくし薬局
奥村　守男	820-0004	飯塚市新立岩　1908-10	21-0586	西日本運送社長
越智　拓生	820-0011	飯塚市柏の森　618	22-9081	外科医
梶原　健伯	820-0012	飯塚市下三緒	23-5563	内科医
茅島　勲	820-0201	嘉穂郡稲築町漆生　881-9	42-4954	茅島宝飾社長
神田　徹	820-0041	飯塚市飯塚9-10	22-0026	南風堂社長
木村　峰雄	820-0062	飯塚市目尾　657-3	22-1900	三協技建会長
栗原　公司	820-0033	飯塚市徳前25	25-1234	久栄社長
崔　英明	820-0016	飯塚市菰田東2-11-7	22-9375	不動産
斎藤　幸二	820-0021	飯塚市潤野　1327-1	22-1764	一番食品外食部長
斎藤　守史	820-0054	飯塚市伊川　60	22-6055	一番食品社長
佐藤　研二	820-0067	飯塚市川津95-254	24-8915	サトー社長
沢田　清司	820-0054	飯塚市伊川1147-2	28-3604	一番食品経理部長
柴田　務	820-0069	飯塚市宮町　4-12	24-7121	税理士
柴田　康	820-0081	嘉穂郡穂波町枝国水洗　495-15	24-8181	歯科医
千々和　敬明	820-0051	飯塚市庄司　225	22-2998	住職
荘田　朋子	820-0005	飯塚市新飯塚4-5	26-7575	婦人科医
高野　新助	820-0042	飯塚市本町　11-22	23-6020	久留米屋社長
田代　隆博	820-0701	嘉穂郡筑穂町長尾　13-1	72-0187	宝生住宅社長
津川　信	820-0005	飯塚市新飯塚　18-12	22-1466	小児科医
角田　信昭	820-0040	飯塚市吉原町　1-9	29-2633	整形外科医
中野　利美	820-0021	飯塚市潤野　885-34	24-6290	さかえ屋社長
縄田　修	820-0044	飯塚市横田　321-1	24-4755	外科医
野田　孝親	820-0045	飯塚市花瀬128-18	22-2888	二葉印刷社長
橋本　博之	820-0067	飯塚市川津　208-02	25-0770	泌尿器科医
樋口　誠司	820-0044	飯塚市横田　838	22-1274	循環器内科医
深見　強	820-0067	飯塚市川津638	29-0764	公務員
藤木　徹雄	820-0053	飯塚市伊岐須490-15	29-3177	藤木印刷社長
松口　武行	820-0074	嘉穂郡穂波町楽市131-1	26-0800	循環器内科医
松隈　隆和	820-0205	嘉穂郡稲築町岩崎1150-1	42-0317	九州互助センター
嶺　敬二	820-0002	飯塚市川島46-1	22-7744	歯科医
宮嶋　正夫	820-0005	飯塚市新飯塚3-22	22-0784	福豊帝酸社長
元山　福仁	820-0067	飯塚市川津206-1	25-0491	漢方医･内科医
森田　潤	820-0044	飯塚市横田649-10	26-6650	小児科医

編集者、発行者：　飯塚友情ネットワーク、留学生フロント

連　絡　先：　〒820-0044
福岡県飯塚市横田334　縄田　修
電話番号　0948－24－2303
（ナワタ消化器外科医院気付）

Published by :　Iizuka Friendship Network & Ryugakusei Front

Contact Person :　Osamu Nawata
334 Yokota,Iizuka,Fukuoka
Tel. 0948－24－2303　〒820-0044

E - m a i l :　nawata@f5.dion.ne.jp